鳥取地方裁判所判事　和久田　斉
同　松江地方裁判所判事　大崎　良信
同　福岡高等裁判所判事　河村　浩
同　木村　元昭　横山　泰造
同　廣田　民生　古賀　寛
同　川口　宰護　犬飼　眞二
同　陶山　博生　西　謙二
同（宮崎支部勤務）　服部　悟
福岡地方裁判所判事　榎本　巧
同　西井　和徒　田中　哲郎
同　岸和田羊一　増田　隆久
同　山之内紀行　岩木　宰
同　高原　正良　野島　秀夫
同　田口　直樹　林　秀文
同（久留米支部勤務）　松尾　嘉倫
同（小倉支部勤務）　須田　啓之
同（同）　金光　健二
同（同）　岡田　健
同（同）　平島　正道
同（同）　大泉　一夫
福岡家庭裁判所判事　林田　宗一
佐賀地方裁判所判事　野尻　純夫
同　若宮　利信
長崎地方裁判所判事　井田　宏
同　重富　朗
同（佐世保支部勤務）　菊地　浩明
大分地方裁判所判事　中平　健
同　宮武　康　西崎　健児
熊本地方裁判所判事　小田　幸生
同　原　克也　片山　昭人
同　鈴木　浩美
鹿児島地方裁判所判事　久保田浩史
同　牧　賢二　大島　淳司
同　中牟田博章　牧　真千子
宮崎地方裁判所判事　中田　幹人
同　島岡　大雄　酒井　良介
那覇地方裁判所判事　鈴木　秀行
同　平田　直人　宮岡　章
仙台高等裁判所判事　齊木　教朗
同　佐藤　陽一　関口　剛弘
同　飯渕　進　石原　直樹
仙台地方裁判所判事　鈴木　信行
同　畑　一郎
同　足立　謙三
同　川本　清巖

福島地方裁判所判事　松谷　佳樹
同　加藤　亮
山形地方裁判所判事　石栗　正子
同　矢数　昌雄
盛岡地方裁判所判事　貝原　信之
同　中島真一郎
秋田地方裁判所判事　鈴木　陽一
同　馬場　純夫
青森地方裁判所判事　浦野真美子
同　小川　賢司
札幌高等裁判所判事　小林　正
同　山本　哲一
札幌地方裁判所判事　千葉　和則
同　橋詰　均
同　石橋　俊一
同　園原　敏彦
函館地方裁判所判事　齋藤　大巳
同　蓮井　俊治
旭川地方裁判所判事　中桐　圭一
同　田口　治美
釧路地方裁判所判事　佐伯　恒治
同　小西　洋
高松高等裁判所判事　丸山　哲巳
同　金馬　健二　長谷川憲一
高松地方裁判所判事　小野　洋一
同　横溝　邦彦
徳島地方裁判所判事　幅田　勝行
同　齋木　稔久
高知地方裁判所判事　佐藤晋一郎
同　松田　典浩
松山地方裁判所判事　平出　喜一
同　濱口　浩
同　加島　滋人　同　足立　勉
部の事務を総括する者に指名する（各通）
山口地方裁判所事務局長　奈原　新二
広島家庭裁判所事務局長を命ずる
広島高等裁判所事務局総務課
長　清山　智生
山口地方裁判所事務局長を命ずる（以上一月一日）

○定年退官
簡易裁判所判事吉田元彦は二十三年十二月三十一日限り定年退官

皇室事項

御弔電

天皇陛下は、ギニアビサウ国大統領マラム・バカイ・サーニャ閣下逝去につき、一月十二日同国大統領代行ライムンド・ペレイラ閣下へ御弔電を発せられた。

歌会始の儀

一月十二日午前十時三十分、宮中において、歌会始の儀を行われた。

御製、御歌、皇族の詠進歌、召人及び選者の詠進歌並びに選歌は、次のとおりである。

岸

御　製

津波来し時の岸辺は如何なりしと見下ろす海は青く静まる

皇后宮御歌

帰り来るを立ちて待てるに季のなく岸とふ文字を歳時記に見ず　東宮

朝まだき十和田湖岸におりたてばはるかに黒き八甲田見ゆ　東宮妃

春あさき林あゆめば仁田沼の岸辺に群れてみづばせう咲く　文仁親王

湧水の戻りし川の岸辺より魚影を見つつ人ら嬉しむ　紀子

難き日々の思ひわかちて沿岸と内陸の人らたづさへ生くる　眞子内親王

人々の想ひ託されし遷宮の大木岸にたどり着きけり　正仁親王

海草は岸によせくる波にゆらぎ浮きては沈み流れ行くなり　華子

被災地の復興ねがひ東北の岸べに花火はじまらむとす　正仁親王妃

今宵揚ぐる花火の仕度始まりぬ九頭竜川の岸の川原に　崇仁親王

大文字の頂に立ちて見る炎みたま送りの岸となりしか　百合子

福寿草ゆきまだ残る斐伊川の岸辺に咲けり陽だまりの中　憲仁親王妃

紅葉の美しき赤坂の菖蒲池岸辺に輝く翡翠の青　久子

対岸の山肌覆ふもみぢ葉は水面の色をあかく染めたり　彬子女王

海原をすすむ和船の遠き影岸に座りてしばし眺むる　承子女王

典子女王

絢子女王